

平成28年度 第1回 九州地方整備局コンプライアンス・アドバイザー委員会議事概要

1. 開催日時 平成28年7月25日（月）13:30～15:00

2. 開催場所 福岡第二合同庁舎 2階 共用第2・第3会議室

3. 出席委員

委員長	砂田 太士	福岡大学法学部教授
委員	園田 佳巨	九州大学大学院工学研究院教授
委員	中西 常道	公認会計士
委員	村上 英明	福岡大学法科大学院教授
委員	山本 智子	弁護士

(敬称略、五十音順)

4. 議事概要

平成27年度コンプライアンス推進計画の実施状況について

5. 委員からの主な意見等

- ・議事概要の説明を受けて、次のような意見があった。

○具体的取組の評価方法について

- ・具体的取組について、実施率に基づいた評価を行っているが、それと同時に「具体的にどういう施策を行ったか」や「それに参加した職員の反応」など、取組内容についての評価もあった方が良く考える。今後、このような点について評価を深めていく考えはあるか。

(整備局回答)

- ・一例であるが、取組報告の中の「局幹部職員による事務所職員との意見交換会での主な意見」のとおり、事務所から出された意見をカテゴリー毎にまとめ、これらを分析し推進計画・取組に反映させていくことを行っている。今後とも取組に対する職員の意見や反応を分析し具体的な取組の中に反映していく。

○局幹部による事務所職員との意見交換会について

- ・事務所の職員が局の幹部職員と話をすること自体非常に意義があることで、大変評価できる取組と考えている。ただ、事務所職員の意見の中から重要なものを抽出し、課題として取り組んでいかないと本当の取組にはならないのではないか。次年度以降、意見交換会の中から出た課題を取り上げて反映させたというものが、具体的に見えるような形にすると非常に役に立つと考える。

○情報の共有について

- ・ポケットブックをスマートフォンで見られるようにしたということだが、各事務所でやっている取組等をサーバーに入れるなどして、事務所相互の情報共有ができれば有益であると考えているがいかがでしょうか。

(整備局回答)

- ・ベストプラクティスはもちろん悪い情報も含めて、事務所へ水平展開していくことが大事だと考えている。今年の7月から職員に向けて発行している「コンプライアンス通信」の中にコーナーを設けて水平展開を行っていく予定。

○他の整備局との情報交換について

- ・他の整備局の取組など情報交換は行っているのか。九州と同じような取組を他の整備局でも行っているのか。

(整備局回答)

- ・全国会議の場で情報交換を行い情報共有を行っている。複数年の推進計画は九州地方整備局だけであったが、今年度から四国地方整備局も九州地方整備局を参考にして複数年の推進計画となった。なお、今回のような評価結果のとりまとめは九州地方整備局しか行っていない。今後、他の整備局の参考になるのではと思っている。

○仕事の進め方、事業執行について

- ・「局幹部職員による事務所職員との意見交換会での主な意見」の「4. 仕事の進め方、事業執行」の中の「事務所と局、出張所と事務所については、日頃からの関係が大事である。局へ意見が言えるような間柄になっておくことは必要である。」という意見が大事である。アンケート結果について、推進する側の管理職と、受ける側の職員との意識の差を無くしていくことが目的であり最終目標であると考え。職員の側が感じている課題について解決策を与えていくことが、推進計画の1番のプロセスとして大事なところではないだろうか。
- ・上司と日頃から意見を言い合える間柄となることが大事だと考える。
- ・モチベーション向上の機会の有無についても、推進する側と受ける側の間には意識の差があり、今後の課題となると考える。
- ・上下関係のみならず職場の環境が良ければコンプライアンスはうまくいく。

○ポケットブックについて

- ・スマートフォンで見ることができるようにしたことは、常時携帯の率を上げるという点では良いと思うが、活用という点からは冊子版を残した方良いと考える。これからも改訂版を出し続けていくのか。

(整備局回答)

- ・必要に応じ、コンプライアンスの項目等を付け加え改訂していく予定。なお、年度替わりにポケットブックの周知を行うとともに、新規採用職員等には配布していく予定。

○今後について

- ・同じようなフォーマットで、今後も統計を取ってデータを出していけば、来年度以降、違った観点から意見を述べるができるようになる。講習会等の結果が実ってくるものもあれば、駄目だったものも分かってくる。それらの結果を更にその次の年度に反映していけば様々な改善につながっていくと考える。

6. 委員会としての意見

平成27年度コンプライアンス推進計画の実施状況については、着実に実行されており高い達成度であると評価できる。また、特にA B C Dでの評価など、報告書も大変見やすくなった。

今後も「九州発」のコンプライアンスを推進していただきたい。

委員会の意見を取りまとめ確認した上で、8月末までに「平成27年度九州地方整備局コンプライアンス報告書」として公表すること。

[平成27年度コンプライアンス報告書へのリンク](#)